

Essbase Readmeリリース11.1.2.4.000

リリース 11.1.2.4.000

製作著作 © 2015

目次

目的	1
このリリースでの新機能	1
このリリースでサポートが廃止された、または非推奨の機能	1
11.1.2.4のEssbaseサーバーと以前のリリースのクライアントの間におけるアウトラインの互換性	3
インストール情報	4
サポートされているプラットフォーム	4
サポートされている言語	4
サポートされているこのリリースへのパス	5
このリリースで修正された問題	6
既知の問題	11
ドキュメントの更新事項	11
ドキュメント・フィードバック	12
アクセシビリティの考慮事項	13

目的

このドキュメントには、このリリースのOracle Essbaseに関する重要な最新情報が記載されています。Oracle Enterprise Performance Management Systemをインストールする前に、このReadmeを十分に確認してください。

このリリースでの新機能

Oracle Essbase新機能を参照してください。このリリースでのインストール、アーキテクチャおよびデプロイメントの変更に
関係のある新機能については、Oracle Enterprise Performance Management System Readmeのこのリリースでの新機能
に関する項を参照してください。

このリリースでサポートが廃止された、または非推奨の機能

サブトピック

- Essbaseネイティブ・セキュリティ・モードのサポート廃止
- このリリースでサポートが廃止されたその他のEssbase機能
- このリリースで非推奨のEssbase機能
- データ・ソースにおけるXOLAPのサポート制限

Essbaseでは、新機能に加えて動作の変更が導入されました。動作の変更には、非推奨およびサポートが終了した機能、コンポーネント、構成設定、オプションおよび構文が含まれています。

この項のトピックは、Essbase 11.1.2.4リリースに適用されます。

旧リリースのEssbaseでサポートが廃止された、または非推奨である機能の詳細は、*Oracle Essbase* データベース管理者ガイドの旧リリースでサポートが廃止された、または非推奨のEssbase機能に関する項を参照してください。

Essbaseネイティブ・セキュリティ・モードのサポート廃止



注意

Essbaseネイティブ・セキュリティ・モードは、セキュリティ上の懸念があるため使用しないことをお勧めします。Essbaseネイティブ・セキュリティ・モードを現在使用している場合、管理サービス・コンソールを使用して、EssbaseサーバーをEPM Systemセキュリティ・モードに変換し、ユーザーをEPM Systemセキュリティに移行する必要があります。*Oracle Essbase Administration Services* オンライン・ヘルプのEssbaseサーバーの変換とShared Servicesへのユーザーの移行に関する項を参照してください。変換および移行タスクの完了後、*Oracle Enterprise Performance Management System* ユーザー・セキュリティ管理ガイドの説明どおりにEssbaseセキュリティが管理されます。

このリリースでサポートが廃止されたその他のEssbase機能

機能がサポートされていないリリースでは、その機能は製品から完全に除去されたか、完全に除去されていない場合、サポートが廃止されています。

Essbase 11.1.2.4以降、次の機能はサポートが廃止されました。

- ハイブリッド分析と拡張リレーショナル・アクセスを含むOracle Essbase Integration Services

ハイブリッド分析と拡張リレーショナル・アクセスの基本概念的な多くは、Oracle Essbase StudioのXOLAPキューブの機能に組み込まれています。

- Visual Basic API

Essbase JAVA APIを使用することをお勧めします。Essbase C APIも使用できます。

- 構成設定:
 - PRELOADALIASNAMESPACE
 - PRELOADMEMBERNAMESPACE
 - PRELOADUDANAMESPACE
 - MAXACTIVEUPDATETRANSACTIONS
 - MAXTOTALACTIVETRANSACTIONS

このリリースで非推奨のEssbase機能

機能が非推奨であるリリースでは、その機能はまだ完全に機能しており(制限が指定されている場合を除く)、サポート対象です。通常、非推奨の機能は次のリリースでサポートされなくなります。



注:

非推奨の機能は実装しないことをお勧めします。

次のEssbase機能は、リリース11.1.2.4では非推奨です。

- 直接I/O
- ブロック・ストレージ・アウトラインの同期化
- アウトライン変更ログ
- 通貨換算アプリケーションと通貨パーティション
- データ圧縮タイプ: ZLIBと「なし」
- リンク・パーティション
- Oracle Essbase Administration Services JAVA API
- ネットワーク接続ストレージ(NAS)デバイスにおけるネットワーク・ファイル・システム(NFS)プロトコル
- MaxL文と構文:
 - **alter user**文: *add [to group]*および*remove [from group]*の構文のみ、非推奨です
 - **create group**文: 文全体が非推奨です
 - **create user**文: 文全体が非推奨です
 - **display group**文: *all*構文のみ、非推奨です
 - **display user**文: *all*構文のみ、非推奨です
 - **drop group**文: *from security_file*構文を除くすべての構文が非推奨です
 - **drop user**文: *from security_file*構文を除くすべての構文が非推奨です

データ・ソースにおけるXOLAPのサポート制限

Essbase 11.1.2.4以降、XOLAPは次のデータ・ソースでのみサポートされています。

- IBM DB2
- Netezza
- Teradata

11.1.2.4のEssbaseサーバーと以前のリリースのクライアントの間におけるアウトラインの互換性

Essbase 11.1.2.4では、XMLアウトライン編集メソッドを使用して作成または更新されたアウトラインは新規アウトライン・バージョンとなります。アウトライン・バージョンの違いは、以前のリリースのEssbaseのEssbaseサーバーまたはクライアントでアプリケーションを使用できるかどうかに影響します。

集約ストレージ・アウトライン:

- Essbase 11.1.2.4でXMLアウトライン編集機能を使用するには、まず以前のリリースで作成された集約ストレージ・アウトラインを11.1.2.4に移行する必要があります。

アウトラインを移行する方法:

- 管理サービス・コンソールでアウトラインを開き、古いアウトラインを移行するよう求められたら「OK」をクリックします。
- C API関数EssOtlSetOPGVersionまたはJava APIメソッドsetOPGVersionを使用します。



注:

11.1.2.4に移行したアウトラインは、以前のリリースのクライアントで編集できません。

- Essbase 11.1.2.4で作成された集約ストレージ・アウトラインは、XMLアウトライン編集を使用しているかどうかにかかわらず、以前のリリースのEssbaseでは使用できません。

ブロック・ストレージ・アウトライン:

- 以前のリリースのEssbaseで作成されたブロック・ストレージ・アウトラインでは、アウトラインを移行せずに11.1.2.4でXMLアウトライン編集を使用できます。
- Essbase 11.1.2.4で作成または更新され、XMLアウトライン編集機能を使用しているブロック・ストレージ・アウトラインは、以前のリリースでは使用できません。

インストール情報

EPM System製品のインストールに関する最新情報は、*Oracle Enterprise Performance Management System* インストールおよび構成*Readme*を参照してください。EPM System製品をインストールする前に、この情報をよくお読みください。



注:

Oracle Smart View for Officeは、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストーラでインストールされなくなりました。最新リリースのSmart Viewをダウンロードおよびインストールするには、次にアクセスします。

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/smart-view-for-office/overview/index.html>

サポートされているプラットフォーム

EPM System製品のシステム要件およびサポートされているプラットフォームに関する情報は、*Oracle Enterprise Performance Management System*の動作保証マトリックスにスプレッドシート形式で提供されます。このマトリックスは、Oracle Technology Network (OTN)のOracle Fusion Middleware Supported System Configurationsページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされている言語

EPM System製品のサポートされている言語に関する情報は、*Oracle Enterprise Performance Management System*の動作保証マトリックスの「Translation Support」タブにスプレッドシート形式で提供されています。このマトリックスは、OTNのOracle Fusion Middleware Supported System Configurationsページに掲載されています:

サポートされているこのリリースへのパス

EPM Systemは、次のリリースからリリース11.1.2.4にアップグレードできます:

注意: アップグレードの手順は、*Oracle Enterprise Performance Management System* インストールおよび構成ガイドの EPM System製品のアップグレードに関する項を参照してください。

表1 サポートされているこのリリースへのパス

アップグレード・パスのリリース: 元	リリース11.1.2.4へ
11.1.2.x	メンテナンス・リリースを適用し、リリース 11.1.2.4 に移動します。 注: Oracle Hyperion Financial Close Managementの場合、メンテナ ンス・リリースの適用がサポートされているのはリリース 11.1.2.2 または 11.1.2.3 以降のみです。 Oracle Hyperion Financial Managementの場合、メンテナ ンス・リリースの適用がサポートされているのはリリース 11.1.2.1 、 11.1.2.2 または 11.1.2.3 以降のみです。
11.1.1.4.x	リリース 11.1.2.3 にアップグレードした後、メンテナンス・リリースを適用してリ リース 11.1.2.4 に移動します。

アップグレード・パスのリリース: 元	リリース11.1.2.4へ
リリース	メンテナンス・リリースを適用してリリース
11.1.1.0.x	11.1.1.4
から	に移動し、リリース
11.1.1.3.x	11.1.2.3
	にアップグレードした後、メンテナンス・リリースを適用してリリース
	11.1.2.4
	に移動します。



注意

すべてのEssbaseポートフォリオ製品(Essbase、Administration Services、Oracle Hyperion Provider ServicesおよびEssbase Studio)およびコンポーネント(サーバー、クライアント、ランタイム・クライアント、APIおよびJAPI)について、同一バージョンを使用することをお勧めします。

推奨事項:

このリリースのように、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management SystemインストーラおよびOracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemコンフィグレータを使用するEssbaseのバージョンにアップグレードする場合、このトピックにリストされた以前のEssbaseリリースで作成されたデータベース・アウトラインは、新規構造体、関数および機能を利用するために、このリリースで再作成する必要があります。

このリリースで修正された問題

このセクションには、リリース11.1.2.4.000で修正された問題が含まれています。以前のリリースで修正された問題のリストを確認するには、Defects Fixed Finderを使用します。このツールでは、所有する製品および現在の実装のリリースを確認できます。1回のクリックで、修正された問題の説明とそれに関連するプラットフォームおよびパッチ番号を含むカスタマイズされたレポートが、ツールによってすばやく生成されます。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1292603.1>

- 18020023, 18019954, 13698528 -- **Smart View**. 行から列へのピボット操作に失敗し、かわりにPOVに行メンバーをピボットします。
- 17811942 -- **Smart View**. ピボット操作によりPOVディメンションが不正に移動します。
- 19773529 -- **Smart View**. Smart Viewクライアントの取得で不正な値が表示されます。
- 19711424 -- **Smart View**. メンバーの移動後に、Smart Viewクライアントに#MISSINGというデータが表示されます。
- 19832878 -- **Smart View**. Smart Viewクライアントでメンバーのズーム・インを実行中に、空の行が挿入されます。
- 18036612 -- **計算**. メンバー式に依存関係の循環が含まれるアウトラインを保存すると、ネットワーク・エラーが発生します。

- 17824533 -- 計算。計算スクリプトにFIX文およびEXCLUDE文が含まれると、アウトライン内の除外されたメンバーの並べ替え中に、アプリケーションの異常シャットダウンが発生します。
- 14644362 -- 計算。@CALCMODE(BottomUp)およびSET CREATENONMISSINGBLK ONが含まれる計算スクリプトが失敗し、XCPファイルが生成されます。
- 17583010 -- 計算。@MDANCESTVALを実行時依存関数で使用すると、アプリケーションの異常シャットダウンが発生します。
- 17443687 -- 計算。@MAXSRANGEは、Oracle Essbaseテクニカル・リファレンスで説明しているように#MISSINGの値を処理しません。
- 14191566 -- 計算。古いバージョンのEssbaseおよびリリース11.xの間に丸め誤差があるため、データ値が予想と異なる場合があります。オプションで互換性設定を選択するには、Oracle Essbaseテクニカル・リファレンスの@ROUND関数のヘルプ・トピックを参照してください。
- 19491013 -- **Smart View**。集約ストレージ・アプリケーションは、Smart Viewクライアントに接続してここから取得した後、異常終了することがあります。
- 19832630 -- 集約ストレージ。場合によって、集約により集約ストレージ・アプリケーションの不正な結果が戻されます。
- 19832902 -- 集約ストレージ。集約ストレージ・データベースで、MDX式により不整合な結果が戻されることがあります。
- 14829630 -- データ・エクスポート。テキスト・メジャーがデータベースに存在する場合、DATAEXPORTはODBCを使用したリレーショナル・データベース・エクスポートについて失敗します。
- 19783553 -- データ・エクスポート。エクスポートのパフォーマンスが最適ではありませんでした。この修正により、パフォーマンスが改善されています。
- 16843064 -- レポート・ライター。レポート・ライター問合せに<LINKコマンドの構文エラーが含まれると、アプリケーションの異常シャットダウンが発生します。
- 19571906 -- **Smart View**。Smart View。データ・フォームを保存した後、3つ以上の列を含むデータ・フォームでセル・データが欠落し、行または列が重複します。
- 19832856 -- 領域。Smart ViewをEssbaseリリース11.1.2.3で使用し、essbase.cfgでSSOPTIMIZEDGRIDPROCESSINGがTRUEに設定されていると、読取り専用として保護された交差にユーザーがデータを送信する可能性があります。
- 6552344 -- 計算。計算パフォーマンスが改善されています。
- 17363415 -- 計算。@XREF計算でオフセットの正しい処理に失敗し、アプリケーションが異常終了します。
- 17563682 -- 集約ストレージ。アプリケーションが、Smart Viewのすべてリフレッシュレポートでの応答を停止します。
- 16711423 -- **API**。Essbase Java APIで、アウトラインは100を超える子を持つ動的計算メンバーがあるかどうかの確認に失敗します。
- 18016800 -- メタデータ。Essbaseアプリケーションは、無効なルール・ファイルを使用したディメンション構築中に異常終了します。
- 17195715 -- **MDX**。Essbaseアプリケーションは、ハイブリッド集約を使用したMDX問合せ中に異常終了します。
- 18034801、18035015 -- **MDX**。Essbaseアプリケーションは、Count関数を使用したMDX問合せ中に異常終了します。
- 18077252 -- 集約ストレージ。名前に\$が含まれるメンバーを参照している集約ストレージ・メンバー式は、不明なメンバー・エラーを戻します。
- 17084177 -- **Smart View**。ズームイン操作により、式の保存および#MISSINGの抑制を含む不正な結果が生成されません。
- 17888409 -- **MDX**。Essbaseアプリケーションは、スライサを使用した子孫のMDX問合せ中に異常終了します。
- 17895101 -- **MDX**。MDX問合せにより、式に子を持つ動的メンバーについて#MISSINGの結果が戻されます。
- 17979579 -- **MDX**。MDX問合せにより、基本メンバーの結果と異なる共有メンバーの結果が戻されます。
- 18032431 -- **MDX**。ハイブリッド集約モードのMDX問合せが、メモリー割当てエラーにより完了できません。
- 18067758、18075356 -- **MDX**。ハイブリッド集約モードのMDX問合せで、ブロック・ストレージ・モードにおける同じ問合せと異なる結果が戻されます。
- 18169791 -- **MDX**。関数@MOVSUMXについて、ハイブリッド集約モードでのMDX問合せの実行に失敗しました。

- 18259444 -- **MDX**。ハイブリッド集約モードのMDX問合せで、集計エラーによりメンバー式について不正な結果が戻されます。
- 17339454 -- **MDX**。Essbase透過パーティションのソース・アプリケーションは、ターゲットからのMDX問合せ中に異常終了します。
- 17951591 -- **Essbase**サーバー。Essbaseアプリケーションは、実行時間の長い同時のMDX問合せおよびデフォルト計算中に異常終了します。
- 18179279 -- **MDX**。疎ディメンションのみまたは密ディメンションのみが含まれるデータベースについて、ハイブリッド集約モードでのMDX問合せの実行に失敗します。
- 19724545 -- **集約ストレージ**。集約ストレージ・データベースが式キャッシュにメモリーを大量に消費します。
- 17646832 -- **Java API**。スクリプトに代替変数が1つのみ存在する場合、または代替変数が存在しない場合に、メソッドcube.getCalcFileRunTimeSubVars()を使用してランタイム代替変数を取得する際にネットワーク・エラーが戻されません。
- 17715673 -- **SQL**インタフェース。ODBCドライバ・エラーのロギングがODBCERRORLOGOFF TRUEを使用して無効化されていても、Essbaseアプリケーション・ログにODBCエラーが含まれます。
- 17769554 -- **Smart View**。グリッドを何度もズーム・インおよびズーム・アウトすると、次のエラーが戻されます。スプレッド・シート・データが無効です。サーバー・プロセスとクライアント・プロセスとの間にアプリケーション・プロトコル・エラーが存在する可能性があります。
- 16907883 -- **Smart View**。1つを除くすべてのディメンションをPOVボックスからグリッドにドラッグすると、リフレッシュ後に最終的なディメンションが行に不適切に移動されます。
- 18023119 -- **データ・ロード**。日本語の文字がEssbase Administration Services SQLインタフェースに正しく表示されません。
- 19068245 -- **データ・ロード**。コミット・アクセス・モードにおいて、Essbaseデータ・ロードが続行され、終了時に中止されません。そのため、インデックスおよびページ・ファイルのサイズが終了後も増加します。
- 18097397 -- **計算**。次のメッセージが、デフォルト計算中にアプリケーション・ログに断続的に表示されます。
[inline]の合計計算経過時間 : [0]秒
- 18126090, 19517775 -- **計算**。FIXPARALLEL計算について改善されたメッセージのロギングが実装されています。
- 19644572 -- **メタデータ**。Essbaseにより、Smart Viewのズーム・イン後に別名ではなく重複名エラーが戻されます。
- 19404334 -- **集約ストレージ**。非集計演算子(~)を含む動的レベル0メンバーについて、集約ストレージ・カスタム計算または割当てに失敗します。
- 16028783 -- **MDX**。MDX問合せの実行時にEssbaseが異常終了し、メモリー不足エラーとなります。
- 15968738 -- **アド・ホック分析**の実行時にEssbaseアプリケーションが異常終了し、ネットワーク・タイムアウト・エラーとなります。
- 18024633 -- **ローカライズ**。特定のトルコ語の文字が疑問符(?)としてロードされます。
- 13698559 -- **Smart View**。Smart Viewでは単一メンバーのPOVをサポートしていません。
- 13698477 -- **Smart View**。Smart Viewでは、POVツールバーからグリッドへのピボット時に複数のメンバーをサポートしていません。
- 16193657 -- **計算スクリプト**の暗号化により、一部のMaxL文が除去されます。
- 16184352 -- **アクティブ・パッシブ・クラスタ**で、EssbaseおよびOPMNが異常終了します。
- 16914851 -- **計算スクリプト**。セキュリティ・リフレッシュの実行中に計算スクリプトを開くと、Essbaseが応答を停止する場合があります。
- 14513014 -- **レポート・ライター**。代替変数が含まれるレポート・スクリプトを実行すると、失敗して次のエラーが発生する可能性があります。

Substitution Variable does not exist.

- 13408039 -- **エージェント**。管理者がリモートからログオフすると、Essbaseが異常シャットダウンする可能性があります。

- 13075833 -- **Administration Services**. 特定の非標準のEPM Systemインストールにおいて、Essbaseアプリケーション名をOracle Essbase Administration Servicesコンソールから変更すると、次のエラーが発生する可能性があります。

1053003 Application directory does not exist.

- 17430484 -- **Smart View**. Smart Viewクライアントで、シートをリフレッシュすると、Essbaseメンバーの左右にあるコメントが表示されなくなります。
- 17168989 -- **Smart View**. 行、列およびデータ間にコメントが含まれるセルは、Smart Viewでシートをリフレッシュするとクリアされます。
- 18204427 -- **集約ストレージ**. 集約ストレージ・データのエクスポートが失敗していました。
- 19553648 -- EssbaseがOracle Exalytics In-Memory Machineで実行されている場合、グループに対するフィルタの関連付けの動作が遅くなります。
- 18898415 -- **データ・ロード**. Essbaseは、引用符によるディメンション参照方法を使用したロード・ルール・ファイルからデータをロードできません。
- 18327910 -- **データ・インポート**. 最初の#MISSINGの値を検出後、DATAIMPORTBINコマンドがデータのインポートを停止します。
- 16987712 -- **DB2**. Oracle Essbase StudioからXOLAPキューブをデプロイ中、EssbaseはDB2データ・ソースに接続できず、キューブ・デプロイメントは失敗します。
- 16091482 -- **データ・ロード**. Essbaseは、ファイル名に複数のドットが含まれるデータ・ファイル (name.withdots.txtなど)からデータをロードできません。
- 17326375 -- **Smart View**. Oracle Smart View for Officeで、リンク・パーティションにドリル・ダウンできません。
- 17797213, 18416709 -- **パーティション**. 透過パーティションに対するMDX問合せの実行中、ターゲット・アプリケーションが異常終了します。
- 14571411, 16993227 -- **Smart View**. 透過パーティションからのデータの取得中に、次のエラーが発生しました。エラー(1040023)ネットワーク・データが無効です。タイプは一致していますが、長さがゼロです。サーバー・プロセスとクライアント・プロセスとの間にアプリケーション・プロトコル・エラーが存在する可能性があります。
- 13027168, 13830462 -- **トリガー**. トリガーが定義されており、ユーザーが複数のブロックを指定する場合、スプール・ファイルに書き込まれるメッセージが電子メールで送信されるメッセージと異なります。
- 13715545 -- **パーティション化**. 透過パーティション内のターゲットを更新するために@XWRITE計算関数を使用されると、Essbaseサーバーが異常終了する場合があります。
- 13941885 -- **MDX**. @記号を含むメンバーに対するMDX問合せが構文エラーを戻す場合があります。
- 13998834 -- **パーティション化**. hostname:portを使用してパーティションを作成できません。
- 14098621 -- **パーティション化**. Essbaseが日本語ロケールに設定されている場合、パーティション定義ファイルの置換に失敗する可能性があります。
- 15844420 -- ARBORPATH/binにessbase.lckファイルが存在するため、Essbaseが起動しません。
- 15949711 -- **MDX**. CrossJoin MDX関数を使用した問合せが予想以上に時間がかかる場合があります。
- 15956201 -- **MaxL**. data_stringおよびto_load_bufferオプションを使用している場合、MaxL import data文(集約ストレージ・バージョン)が失敗する可能性があります。
- 16371237 -- **集約ストレージ**. 同時増分データ・ロードの実行時に、集約ストレージ・アプリケーションが異常終了する可能性があります。
- 16558387 -- **インポート**. ブロック・ストレージ・データベースで、約524,000を超えるメンバーを持つディメンションの作成に失敗する可能性があります。
- 19346471, 19348655 -- **カーネル**. 正常なりカバリ後、再構築に関連するアプリケーション・ログ・メッセージが正しくありません。
- 19508701 -- **SQLインタフェース**. Oracle Call Interface (OCI)接続がSQLインタフェースで失敗する場合のエラー・メッセージが不明です。

- 19508718 -- **SQL**インタフェース。Oracle Call Interface (OCI)を使用したSQLインタフェースからのデータの取得で、列名の最初の文字のみが表示されます。そのため、データ・ロードまたはディメンション構築を続行できません。
- 19508740、19508748 -- **SQL**インタフェース。Oracle Call Interface (OCI)を使用したSQLインタフェースからのデータおよび列名の取得で、文字化けした文字が表示されます。そのため、データ・ロードまたはディメンション構築を続行できません。
- 19508773 -- **SQL**インタフェース。SQLインタフェースからODBCを介したUnicode文字を含むデータ・ロードに失敗します(文字化けした文字を取得)。
- 18267036 -- **MDX**。ハイブリッド集約モードでの再帰式に関連するログ・メッセージは、間違っただメンバ名を参照します。
- 19595221 -- **MDX**。Leaves()関数を使用した問合せは、メモリー制限により失敗します。
- 19658894 -- データ・エクスポート。空のアウトラインからのデータ・エクスポートが成功しませんでした。現在では正常に実行され、0バイトのファイルが作成されます。
- 19911956 -- データ・エクスポート。計算スクリプトからエクスポートされたデータ・ファイルには、不正なヘッダー・レコードが含まれることがあります。
- 20124119 -- **Smart View**。問合せされたメンバがラベルのみの親であり、子の1つ(最初の子以外)がパーティション定義に含まれる場合、取得時間が長くなり、不正な結果となります。
- 18544423 -- その他。dllについて、間違っただバージョン情報がプロセス・エクスプローラに表示されます。
- 18638598 -- レポート・ライター。集約ストレージの透過パーティション・ターゲットからのレポート・スクリプトの取得に最適な結果ではありません。
- 18355797 -- メタデータ。許可されたメンバ名\$NULL\$を使用すると、取得時にエラー・メッセージが戻されます。
- 18731237 -- メタデータ。メンバ式が無効な場合でも、プランニング・データベース・リフレッシュでアウトライン確認が成功します。
- 19517775、18126090 -- 計算。FIXPARALLEL計算について改善されたメッセージのロギングが実装されています。
- 19827483 -- データ・ロード。ESSCMDから開始された並列データ・ロードを取消できません。
- 19943308 -- その他。ドリルスルー定義の削除により、アプリケーションがハングする可能性があります。
- 20047312 -- その他。UNIXサーバーに現存しないプロセスがリストされます。
- 20124477 -- データ・エクスポート。“DATAEXPORTOPTIONS { DataExportRelationalFile ON; ..}”を指定したDATAEXPORTは、FIXPARALLEL内で実行すると、不完全な結果が生成される場合があります。
- 18936565、19781319 -- メタデータ、問合せ。メンバ式でISUDA()を使用すると、レポートおよび計算の動作が非常に遅くなります。
- 20005755 -- メタデータ。長いテキスト・リストを含む集約ストレージ・アウトラインを表示できません。
- 20027524 -- 計算。メンバ式のエラーにより、アプリケーションが異常シャットダウンし、.xpcファイルが部分的に生成されます。
- 19920209 -- 計算。問合せメンバ数が多すぎるというメッセージにより、計算スクリプトが失敗します。
- 18603365 -- **MDX**。文字列パラメータがプロパティ値となる場合、パラメータとして文字列を受け取るMDX関数がエラーを戻します。
- 20200253 -- **Smart View**。スプレッドシートに256を超える列が含まれる場合、アプリケーションがSmart Viewのデータ送信への応答を停止します。
- 18690087 -- **MDX**。式およびタイム・バランス平均タグを含む勘定科目メンバに対して、不適切な結果が戻されま
- す。
- 18742275 -- **MDX**。タイム・バランス・タグが付いた子を持つ2パス・メンバの親に対する問合せ中に、アプリケーションが応答を停止します(ハイブリッド集約モードが使用可能)。
- 18742510 -- ハイブリッド集約。アプリケーションを停止し、そのハイブリッド集約モードのサブディレクトリを除去すると、アプリケーションのcache_size設定がリセットされます。
- 19382266 -- ハイブリッド集約。ハイブリッド集約サブディレクトリにより、異常シャットダウン後にリカバリに影響が及び
- ます。

- 19517637 -- カーネル。データベースの計算および問合せの実行の同時要求を実行中、Essbaseサーバーが異常終了する場合があります。
- 20124157 -- カーネル。2つの新しい情報メッセージがアプリケーション・ログに導入されました(インデックス書込みの開始時および終了時)。

```
"Begin writing [%s] dirty index pages for database [%s]."  
"Finished writing dirty index pages for database [%s]."
```

- 19177623 -- 計算。@XWRITEを使用した計算中に、次のようなエラーが戻されます。式の実行のエラー([mbrName]の行0): スタックがいっぱいです
- 19627818 -- 計算。後続のFIX文において、以前のFIX文で@CREATEBLOCKにより新規作成されたブロックに対する計算に失敗します。
- 19830716 -- 計算。同時計算およびレポート・スクリプトの実行中、アプリケーションが異常終了します。
- 19832532 -- アウトラインAPI。場合によっては、アウトライン内のメンバーの移動によりアプリケーションが異常終了する可能性があります。

既知の問題

このリリースで注意が必要な既知の問題は次のとおりです。

- 19842726 -- XMLアウトライン編集を使用してメンバー名を変更する場合は、セル・データが保持されません。
- 20071438, 19926562 -- 二重引用符に囲まれバックスラッシュで終わるメンバー名がエクスポート・データに含まれる場合、ルール・ファイルを使用して再インポートすると、レコードが拒否されることがあります。
- 19461502 -- 並列データ・ロード、並列計算または並列再構築が使用されている場合、一部のアプリケーションおよびデータベース統計が正確でない可能性があります。特に、診断統計(平均クラスタ率、キャッシュ・ヒット率およびデータ・ブロックの密度の統計など)は、並列操作を使用している環境では正確と見なすことができません。
- 20347013 -- EssbaseがAIX上で実行されている場合、値0の問合せ結果が00と表示されることがあります。この問題は、Essbaseではなくオペレーティング・システムが原因です。

IBM社は、この問題を修正するAIX V7.1用のAPARを発行しました: IV24433: SPRINTF PRINTS ONE MORE FRACTIONAL DIGIT THAN SPECIFIED APPLIES TO AIX 7100-01。次のURLから修正をダウンロードしてください: <http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg1IV24433>

- 20148540 -- 古いクライアントを使用した、集約ストレージ・データベースでの集約ビュー選択の実行は、サポートされていません。
- 20362903 -- 下位互換性メッセージが正しくありません。
- 20388529 -- アップグレードにより、odbc.ini、essbase.cfg、opmn.xmlおよびodbcinst.iniファイルが最新のODBCに更新されません。

ドキュメントの更新事項

サブトピック

- [EPM System製品ドキュメントへのアクセス](#)
- [Internet Explorerでのオンライン・ヘルプ](#)
- [PDFからのコード・スニペットのコピーと貼付け](#)

- [集約ストレージ・アプリケーションの移行によるすべての集約ビューのクリア](#)

EPM System製品ドキュメントへのアクセス

最新のOracle Enterprise Performance Management System製品ガイドは、Oracle Help Center (<https://docs.oracle.com/en/>)で入手します。ドキュメントにアクセスして表示またはダウンロードするには、「Applications」アイコンをクリックします。「Applications Documentation」ウィンドウで「EPM」タブを選択してから、「Enterprise Performance Management」リンクをクリックします。

また、Oracle Technology Network (<http://www.oracle.com/technetwork/index.html>)およびOracle Software Delivery CloudのWebサイト(http://edelivery.oracle.com/EPD/WelcomePage/get_form)で、デプロイメント関連ドキュメントを参照できます。またはEPM System Documentation Portal (<http://www.oracle.com/us/solutions/ent-performance-bi/technical-information-147174.html>)にアクセスすることもできます。そこで、My Oracle Support、EPM Supported Platform Matrices などへのリンクが見つかります。

Internet Explorerでのオンライン・ヘルプ

Internet Explorer 9の使用時に、オンライン・ヘルプで一部の表とテキストが不正確に表示される場合があります。

PDFからのコード・スニペットのコピーと貼付け

PDFファイルからコード・スニペットを切り取って貼り付ける際、貼付け操作時に一部の文字が失われる場合があります、これによりコード・スニペットが無効になります。回避策: コード・スニペットをHTMLバージョンのドキュメントから切り取って貼り付けます。

集約ストレージ・アプリケーションの移行によるすべての集約ビューのクリア

集約ストレージ・アプリケーションが現在のリリースのOracle Essbaseに移行されると、集約ビューがすべてクリアされます。

ドキュメント・フィードバック

製品のドキュメントに関するフィードバックは、次の電子メール・アドレスに送信してください: EPMDoc_ww@oracle.com。

次のソーシャル・メディア・サイトのEPM情報開発をフォローしてください:

- YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>
- Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731>
- Twitter - <https://twitter.com/HyperionEPMInfo>
- Facebook - <https://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>
- Linked In - http://www.linkedin.com/groups?home=&gid=3127051&trk=anet_ug_hm

アクセシビリティの考慮事項

オラクル社では、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントをご利用いただけることを目標としています。このReadmeファイルはHTML形式で入手できます。

著作権情報

Oracle® Essbase Readme,

Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。